

「乾燥地農業と灌漑」～筑波国際センターでの講義を終えて

国際耕種ではAAINews第37号でも紹介したように、JICA筑波国際センターにおける研修事業として「タジキスタン国別特設野菜栽培コース」を担当しているが、今回それとは別のコースで外部講師として「乾燥地農業と灌漑」に関する講義を2回にわたって行った。担当したコースは2つで、南部アフリカの「野菜・畑作技術コース」(研修員7名)と「野菜栽培技術コース」(同11名)だった(後者のコースは特定の対象地域はなく、アジア、アフリカ、中南米等、世界各国から研修員が参加している)。講義を実施する上でめざしたことは、我々がこれまでに途上国援助で経験してきた事例の紹介を中心にして、あまり「教科書的」ではない内容にすること、そして少しでも研修員の日常業務に直接役に立つ、あるいは改善のためのヒントを与えられるようなものにするのであった。さらに、できるだけ一方通行にならないようにディスカッションもなるべく多くし、インターラクティブ(双方向的)なものにする、ということも心がけた。講義用の材料としては、パワーポイントによるプレゼンテーションとサブ・テキストとして「Irrigation for Field Crops & Vegetables」を作成した。

講義は以下の4つのセクションから成り、午前と午後に分けて行った。また講義に先立って、研修員たちの置かれている状況や問題点を知るために、10項目からなる質問票による簡単なアンケート調査を行い、その集計結果も講義に反映させて研修員のニーズに応えるようにした。

- ① 乾燥地の水資源: 乾燥地の特徴とそれに基づいた開発のあり方、及び乾燥地における水資源の重要性について
- ② 乾燥地の水利用: 灌漑の効果、灌漑方法、灌漑効率、及び節水灌漑について
- ③ 乾燥地の持続的開発: 灌漑に起因する諸問題や、乾燥地における持続的な開発の考え方と手法
- ④ 灌漑開発と普及員の役割: 灌漑開発や農業農村開発における普及員の役割や普及の問題点

さて、講義を受けた研修員の反応はというと、現地で調達可能な資材で作製した節水灌漑システムのような適正技術的な話題には特に興味を示していた。また研修員の中には、普及員や普及に関連した業務を行っている者が多く、講義では普及の現状や問題点に関しては中東・シリアの事例を紹介したが、国や地域が異なっても共通する課題はあるようで、事前アンケート調査の結果にもそれが表れていたし、ディスカッションの際にもさまざまな意見が出された。今回作成したテキストや教材は、研修員たちの意見・要望や社内での評価検討の結果等をもとに改善および充実させて、できるだけ研修員のニーズに合った内容にして、より良い研修ができるように努めていきたい。

ところで、この筑波での講義の他にも、同様の内容で静岡大学の学生を対象にしたセミナーも行った。国際耕種としては今後ともこうした研修業務への関わりや、大学との交流を続けていきたいと考えている。



筑波国際センターにおける講義



静岡大学におけるセミナー